

第40回 北信越中学校総合競技大会 ソフトテニス競技

競技上の注意（団体戦）

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び大会要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更することがあるので、放送には十分注意する。2～3面同時展開で実施する場合もある。
- 3 選手変更がある場合、所定の用紙（参加校には大会本部より事前に配布）を用い、関係各県競技専門委員長（部長）を通して届ける。なお、監督会議後の変更は認めない。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが正審から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督またはコーチどちらか1名とする。
- 6 試合開始時刻は原則、進行表どおりとするが、本部の判断により変更することがある。進行状況によっては、コート変更や複数のコートに開いて実施することがある。選手は時間を守って選手招集所に集合する。コートへの入・退場は審判員の指示に従う。
- 7 使用球は公認球(白色)を使用する。2019年度は男子、女子ともにダンロップボールとする。（全国大会に準拠する。）
- 8 トスはコート上で、各対戦の前に行う。
- 9 3ペアの点取り対抗戦とし、2点を得たチームを勝ちとするが、1回戦のみ3対戦すべてを行う。
- 10 オーダー用紙（選手登録名簿通りに氏名を記入する）は、対戦相手が決まり次第、ただちに本部の受付に監督が提出する。1回戦は監督会議終了後、すぐに本部の受付に提出する。
- 11 ベンチに入る監督またはコーチ、選手は、必ず着席すること。次の対戦の選手は除く。
- 12 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合はルールを守って行う。チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前に移動を含め1分以内とする。レッツプレイのコール後、動きがない場合は警告（イエローカード）を与える。2～3面展開する場合は、監督（コーチ）がベンチを移動して行う。なお、インプレー中は監督またはコーチは移動しない。
- 13 コーチ（外部指導者）が監督の代わりにベンチ入りすることは認めるが、別に定めたとおりとする。（別紙の北信越中学校ソフトテニス競技規則「内規」参照）
- 14 異議の申し立てはできないが、質問等はチームの監督（コーチ）またはそのプレーヤーのいずれかが行うことができる。マッチに支障のないようにすることとし、異議申し立てとみられる態度や発言については、警告（イエローカード）の対象とする。
- 15 競技規則第15条（プレーヤーの心得）について
 - (1) プレーヤーはルール・マナーを尊重する。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告（イエローカード）の対象とする。
 - (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーする。遅延行為に対しては警告（イエローカード）を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻る、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直す等の行為は慎むこと。
 - (3) 応援はプレーをスムーズに進行させるため、過度（審判のコールやプレーに支障が出る）にならないようにする。相手を不快にさせたり、他のコートに迷惑をかける応援をしたりした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督の説明の後、警告（イエローカード）を与える。また、応援者を退場させることもある。
 - (4) 声やリズムをそろえての集団応援は行ってもよいが、当該チームのベンチの後ろのみで行う。進行上妨げになると本部が判断した場合は集団応援を禁止する場合もある。うちわやペットボトル等の道具を使った応援は行わない。
- 16 熱中症対策のため、「チェンジサービス時及びファイナルゲーム7オールでの給水」を認める。チェンジサイズ時に水筒等を審判台下に置いた選手のみ給水ができる。その際、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。

競技上の注意（個人戦）

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び大会要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更することがあるので、放送には十分注意する。
- 3 個人戦の選手変更は原則認められない。但し、ペアの1名が、けが・病気等で出場不可能になった場合に限り、所定の用紙（参加校には大会本部より事前に配布）を用い、関係各県競技専門委員長（部長）を通して届けること。なお、監督会議後の変更は認めない。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが正審から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督、またはコーチどちらか1名とする。
- 6 ベンチサイドの変更は招集時に対戦校に申し出て、対戦校及び審判の了解を得ること。
- 7 試合開始時刻は原則、進行表どおりとするが、本部の判断により変更することがある。選手は時間を守って選手招集所に集合する。コートへの入・退場は審判員の指示に従う。
- 8 使用球は公認球(白色)を使用する。2019年度は男子：ケンコーボール、女子：アカエムボールとする。（全国大会に準拠する。）
- 9 トスはコート上で行う。
- 10 2ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合は、監督（コーチ）がベンチを移動し、助言することができる。ただし、他のマッチに支障が生じないように移動し、そのコートに戻ることはできない。
- 11 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合はルールを守って行う。チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前の移動を含め1分以内とする。レッツプレイのコール後、動きがない場合は警告（イエローカード）を与える。
- 12 コーチ（外部指導者）が監督の代わりにベンチ入りすることは認めるが、別に定めたとおりとする。（別紙の北信越中学校ソフトテニス競技規則「内規」参照）
- 13 異議の申し立てはできないが、質問等はそのプレーヤーが行うことができる。マッチに支障のないようにすることとし、異議申し立てとみられる態度や発言については、警告（イエローカード）の対象とする。
- 14 競技規則第15条（プレーヤーの心得）について
 - (1) プレーヤーはルール・マナーを尊重する。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告（イエローカード）の対象とする。
 - (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーする。遅延行為に対しては警告（イエローカード）を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻る、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直す等の行為は慎むこと。
 - (3) 応援はプレーをスムーズに進行させるため、過度（審判のコールやプレーに支障が出る）にならないようにする。相手を不快にさせたり、他のコートに迷惑をかける応援をした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督の説明の後、警告（イエローカード）を与える。また、応援者を退場させることもある。
 - (4) 声やリズムをそろえての集団応援は行わない。うちわやペットボトル等の道具を使った応援は行わない。
- 15 熱中症対策のため、「チェンジサービス時及びファイナルゲーム7オールでの給水」を認める。チェンジサイズ時に水筒等を審判台下に置いた選手のみ給水ができる。その際、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。